

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/02/02

金融政策の変更期待乏しく、方向感は作りにくい

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	波乱要因に警戒しつつ 予想レンジ: 115.000 ~ 120.000 円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>	➡	BOC追加利下げの可能性を探る 予想レンジ: 89.500~96.500円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

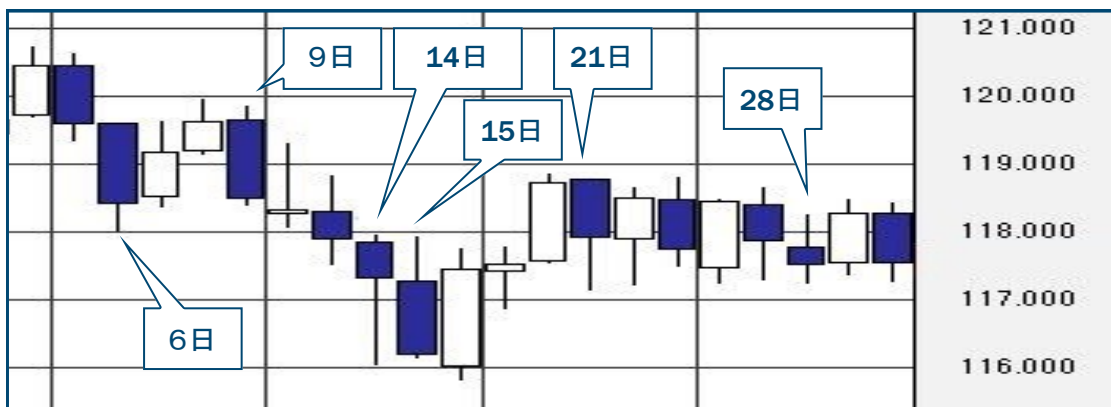
Copyright©2015Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 1月の推移

1月のドル/円相場は115.837~120.740円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.8%の下落(ドル安・円高)となった。

ドル/円は月初こそ120円台に乗せていたが、上値の重さが顕著で、特に米12月雇用統計の後は原油安などを背景とする主要国株価の下落や米長期金利の低下などが重石となって軟調に推移。スイス中銀のユーロ/スイス防衛レートの撤廃など特殊要因を挟みながら、一時115.837円まで下値を切り下げた。原油安が一服した事、欧州中銀(ECB)の量的緩和期待を受けた主要国株の切り返し、日銀の付利引き下げ期待などが追い風となって、その後は一旦切り返したが、118円台後半では頭が抑えられる状態。もっとも、米国の利上げ期待が根強い中で、117円台前半では底堅さも見せた。



四本値	
OPEN	119.740
HIGH	120.740
LOW	115.837
CLOSE	117.569

6日	米12月ISM非製造業景況指数が56.2と市場予想(58.0)よりも弱い結果となった事でドル売りが強まった。さらに、原油安、NYダウ平均の下落、米長期金利が低下した事も重石となった。
9日	米12月雇用統計は、失業率5.6%(予想:5.7%)、非農業部門雇用者数は25.2万人増(同:24.0万人増、前月:32.1万人増→35.3万人増)、不完全雇用率11.2%(前月:11.4%)と、これらが良好だった一方、労働参加率は62.7%(前月:62.8%→62.9%)から低下。また、平均時給は前月比-0.2%(予想:+0.2%、前月:+0.4%→+0.2%)と弱い部分もあった。これを受けて発表直後のドル/円は乱高下したが、次第に米長期金利の低下が重石となって下落した。
14日	日経平均の下げが重石となった上、米12月小売売上高が前月比-0.9%と市場予想(-0.1%)を大きく下回った事を受けて116.070円まで下落した。
15日	スイス国立銀行(SNB)がユーロ/スイスの防衛レート(1.20フラン)を撤廃すると発表した事を受け、ドル/スイスが急落した事、スイス株主導で欧州株が一時失速した事などを背景にドル/円は下落した。さらに、NY市場に入り石油輸出国機構(OPEC)が月報において2015年のOPEC産原油の需要見通しを下方修正し、NY原油先物が下落すると、米国株は下落し、米長期金利は低下。ドル/円は下値を切り下げる動きとなった。
21日	日銀が金融政策の据え置きを発表すると、前日に「日銀が付利引き下げを決定する」との思惑が広がり、円安が進んでいた反動から、ドル/円は下落。また、声明におけるインフレ率見通しが引き下げられていた事(2014年度:+1.2%→+0.9%、2015年度:+1.7%→+1.0%)、黒田日銀総裁が記者会見にて付利引き下げの議論がなかった事を明らかにすると117.169円まで下値を切り下げた。
28日	シンガポール金融通貨庁が「シンガポールドルの取引バンドの傾斜を緩やかにする」として事実上の通貨切り下げを行い、ドル/シンガポールドルが急騰すると、ドル/円も一時的に連れ高した。ただ、米連邦公開市場委員会(FOMC)声明の発表を前に、上げ幅を縮小。声明では、「景気はしっかりとしたペースで拡大」と景気判断が上方修正されていた事から直後はドル買いで反応するも、同時に「市場ベースでのインフレ期待はい大きく低下」「エネルギー安を大きく反映してインフレはさらに低下」とされていた事を受けて米長期金利が低下すると、117.259円まで下値を切り下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.6645%
HIGH	0.7143%
LOW	0.4022%
CLOSE	0.4488%

米10年債利回

OPEN	2.1712%
HIGH	2.2109%
LOW	1.6357%
CLOSE	1.6407%

日経平均

OPEN	17325.68
HIGH	17850.59
LOW	16592.57
CLOSE	17674.39

NYダウ平均

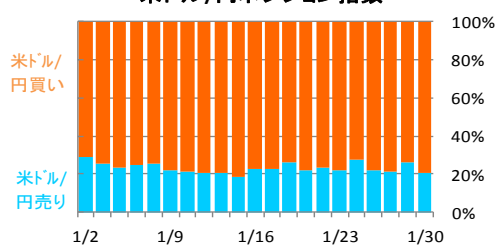
OPEN	17823.07
HIGH	17951.78
LOW	17136.30
CLOSE	17164.95

1月のポジション動向

2月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

米ドル/円ポジション指数



- ・米1月雇用統計(6日)
- ・米1月小売売上高(12日)
- ・日本10-12月期GDP・一次速報(16日)
- ・日銀金融政策決定会合(17-18日)
- ・FOMC議事録(18日)
- ・日本1月通関ベース貿易収支(19日)
- ・日銀金融政策決定会合議事要旨(23日)
- ・日本1月全国消費者物価指数(27日)
- ・米10-12月期GDP・改定値(27日)
- ・米利上げ時期に関する要人発言

2月の見通し

1月のドル/円は前半は原油価格の下落が主要国株価や米長期金利を押し下げの中で低下。ただ、原油安の進行に一服感が出ると、膠着感が強まった。日本については当面は追加緩和を打たないだろうという見方が強く、また米国についても、1月の米連邦公開市場委員会(FOMC)での政策変更の期待が低かった事から方向感が出なかった。

米国については、まずは6日発表の米1月雇用統計が注目される。ただ、次回のFOMCが3月17-18日で、これを前に2月分の雇用統計(3月6日発表)の発表が来る。つまり、2月に発表される経済指標のみで次回FOMCの思惑を形成しきる事は出来ず、ドル主導で大きく方向感が出るとは考えにくい。また、日本についても、10月に追加緩和を行ったばかりという事もあり、当面の金融政策変更を想定する向きは少ない。ドル/円はしばらく、大きな方向感が出ない状態が続きそうだ。

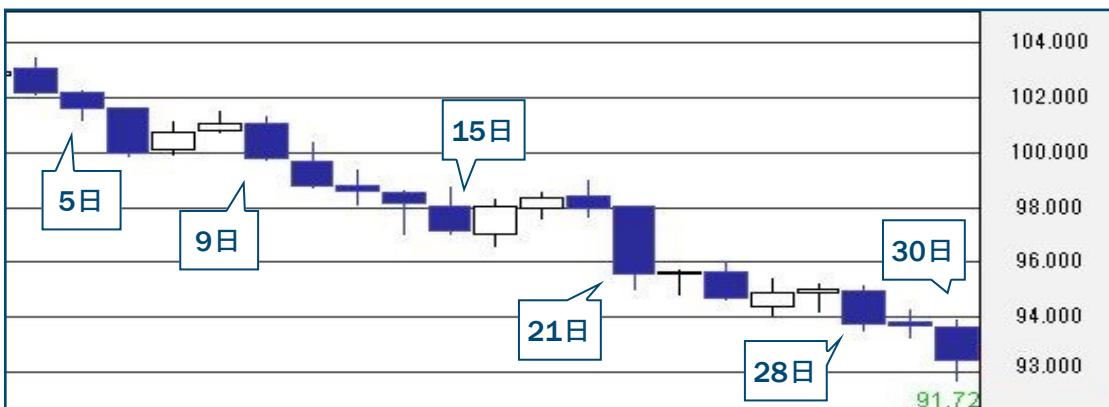
ただし、日銀については10月緩和もサプライズだった事から、「黒田日銀総裁なら、急にサプライズ的な追加緩和を行ってもおかしくない」という警戒感根強く残っており、日銀金融政策決定会合があるごとに、1月会合直前に広がった噂と同様の「サプライズ緩和の思惑」によって急に円安が進む場面が出てくる可能性は否定できない。波乱要因として、会合前後の動きは警戒が必要だろう。また、ギリシャとトロイカの支援プログラムや財政再建に関する交渉の進捗にも気を配っておきたい。交渉決裂の色が濃厚となれば、金融市場全体が一旦リスク回避に向かい、ドル/円に関しては円高が進む可能性がある。また、原油安が一段と進み、主要国株安が進めば、やはりドル/円の圧迫要因になろう。(石川)

(予想レンジ: 115.000~120.000円)

カナダ/円 1月の推移

CAD/JPY

1月のカナダ/円相場は91.728～103.476円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約10.2%の大幅な下落(カナダドル安・円高)となり、米リーマン・ショック直後の2008年10月以来の高い下落率を記録した。前月に約6年4か月ぶりの高値(106.496円)を付けていた反動に加え、原油価格が大幅に下落(月間で約9.4%の下落率)した事と、カナダ中銀の金融政策スタンスが緩和方向に転じた事がカナダドルの大幅な下落に繋がった。



四本値	
OPEN	103.125
HIGH	103.476
LOW	91.728
CLOSE	92.470

5日	NY原油先物が一時50ドルを割り込んで下落する中、カナダドル売りが優勢となった。さらに、原油安やギリシャの政局不安を嫌気して欧米株価が下落したため円買いが活発化。こうした中、カナダ/円は101円台前半まで値を下げた。
9日	加12月雇用統計の雇用者数ネット変化が0.43万人減と予想(1.50万人増)に反して減少した事(失業率は予想通りの6.6%)からカナダドル売りが活発化。米12月雇用統計の発表後にドル/円が下落した事もカナダ/円の重石となり、99.70円台まで軟化した。
15日	スイス中銀(SNB)が、スイスフラン高阻止のために設定していたユーロ/スイス相場の下限レートを撤廃。突然の発表にユーロ/スイス相場が3500ポイント前後急落した他、スイス/円が45円前後急騰するなど市場が混乱した。こうした混乱の中、カナダ/円は一時97円台前半まで下落した後、ドル売り・カナダドル買いが強まった影響から98.70円台まで反発するなど荒っぽく上下した。さらに、石油輸出機構(OPEC)が2015年の原油需要見通しを前月から下方修正した事を受けてNY原油先物が再び下落すると97.069円まで値を下げる乱高下となった。
21日	日銀が金融政策の据え置きを発表し、黒田総裁が「15年度を中心とする期間に物価2%に達する可能性が高い」「付利引き下げ議論は全くなかった」などと発言すると円が買われた。さらに、カナダ中銀(BOC)が政策金利を1.00%から0.75%に引き下げると発表。予想外の利下げにカナダドル売りが強まるとカナダ/円の下落に拍車がかかった。また、ポロズBOC総裁が「BOCは更に政策を操作する余地がある」「インフレは大きな下振れリスクがある」などと発言した事もあって95.048円まで下落した。
28日	カナダ統計局は、9日に発表した12月雇用統計の改定を発表。失業率が6.6%から6.7%に修正された上に、雇用者数ネット変化が0.43万人減から1.13万人減に修正された事からカナダドル売りが活発化した。その上、米FOMC声明発表後に、米国株が大きく下落した事から、94.00円を割り込んで下落した。
30日	加11月国内総生産(GDP)が前月比-0.2%と予想(±0.0%)を下回ると、BOCの利下げ観測を巻き込みながらカナダドル売りが強まり、91.728円の安値を付けた。ただ、売り一巡後は原油価格が大幅に上昇する中で一時93円付近まで買い戻されるなど、神経質な値動きとなった。

CAD/JPY

加10年債利回り

OPEN	1.788%
HIGH	1.812%
LOW	1.246%
CLOSE	1.251%

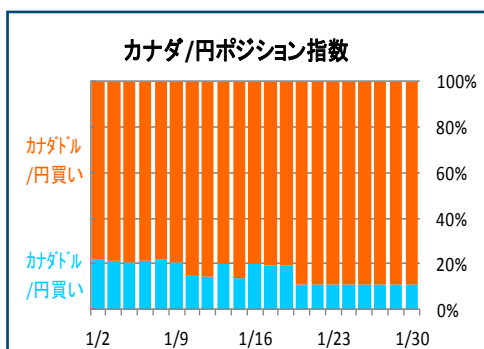
N Y 原油

OPEN	53.76
HIGH	55.11
LOW	43.58
CLOSE	48.24

NYダウ平均

OPEN	17823.07
HIGH	17951.78
LOW	17136.30
CLOSE	17164.95

1月のポジション動向



2月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・1月加雇用統計(6日)
- ・1月加住宅着工件数(9日)
- ・日銀金融政策決定会合(17-18日)
- ・12月加小売売上高(20日)
- ・1月加消費者物価指数(26日)
- ・1月日本消費者物価指数(27日)
- ・主要国株価・国際商品価格

2月の見通し

1月のカナダ/円の月足は、ロウソク足の実体部が10円を超える巨大陰線となり、昨年1年間を費やして上昇した値幅の大部分を吐き出した格好だ。原油価格の続落やカナダ中銀(BOC)による予想外の利下げがあったとは言え、1カ月で10%を超える下落はやや行き過ぎの感が否めない。2月は下げ止まりのポイントを探りつつ、値ごろ感からある程度の反発を期待する事も可能だろう。もっとも、原油相場の続落はカナダのインフレ率の低下に繋がるため、価格動向には引き続き注意が必要だ。BOCは、1月の声明で低インフレに警戒感を示した上で、追加利下げの用意がある事を示唆している。追加利下げの観測が高まれば、もう一段のカナダドル売り圧力となるだろう。BOCの追加利下げの可能性を見る上では、9日の1月住宅着工件数や20日の12月小売売上高、26日の1月加消費者物価指数など、主要経済指標の結果も重要なポイントとなる。(神田)

(予想レンジ: 89.500~96.500円)